



“患者さんにとっての最適解”を 求めるための必携書

評者 徳田安春 群星沖縄臨床研修センター長

最適化理論による数量モデルを利用すると、アウトカムを最大化させるような変数の解を求めることができる。これが最適解だ。数学では、微分積分法などを用いて推定する。医療分野への応用では、感染症疫学での流行カーブを遅らせて小さくするためのパブリック・ヘルスの介入を求める方法がある。今、世界的に流行している新型コロナウイルス感染拡大に対する介入においても、その最適解を求めて研究者が数量モデルをつくり政策立案者に提言している。

しかし、日常診療において患者さんにとっての最適解を求めるには、変数とその組み合わせが無数にあるため、数量モデル化は困難だ。医学部受験のために勉強した微積分を使うことはできない。“患者さんのための最適解”を求めるには、どうすればよいのか？

それには、三大条件がある。第一に、問診と身体診察を丁寧に行い、必要な検査データを把握した担当医がいること。第二に、臨床経験が豊富で、かつ最新のエビデンスを熟知した指導医がいること。第三には、両者の効果的な対話によって診療計画が徐々に形成され、それと並行して両者が学習することである。

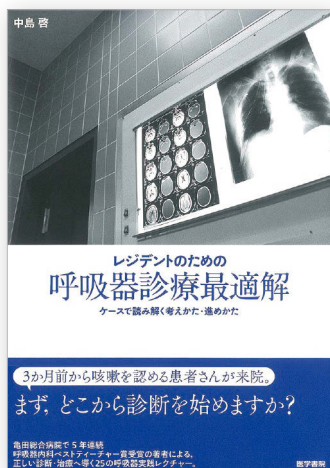
本書が「第二条件」を補強する

研修病院において、研修医や若手医師は、自力で頑張れば、問診と身体診察、検査について把握することはできる。しかし、多数に分かれている診療科で、最適解を提示できる臓器別専門指導医がすべて身近にいるとは限らない。

本書の著者は、自身が所属する病院で優秀指導医賞を長年連続受賞しているカリスマ指導医である。優しく丁寧に最適解を教えてくれる指導医だ。できれば、呼吸器内科の研修はこの著者のもとで受けたいと思う読者が多いだろうが、それは簡単ではない。

そこで登場したのが本書だ。真に理想的な指導医が、実際に経験したケースに基づき、対話方式で教えてくれる。25のケースによって、呼吸器内科のコンディジーズはすべてカバーしている。それぞれのケースで、病歴と身体所見のみの情報からスタートする。わかりやすい図表と写真もあり、網羅的な鑑別診断が表で示される。肺の画像読影の教育が得意な著者は、本書でも肺CTにおける読影ポイントをわかりやすく図示解説してくれている。治療では、具体的な処方や注射内容が細かく記載されている。メモとして、さらに詳しい事項はコラムにまとめられている。

多くのレジデントが本書を読むことで、呼吸器疾患の実臨床において“患者さんのための最適解”を求めることの助けになると確信している。 **G**



レジデントのための 呼吸器診療最適解

ケースで読み解く
考えかた・進めかた

中島 啓=著

定価：本体 5,200 円＋税
B5・392 頁／医学書院／2020
[ISBN978-4-260-03668-9]